

平成27年度 第2回 伊達市総合教育会議 会 議 録

1 日 時

開 会 平成27年11月26日(木) 15時00分
閉 会 平成27年11月26日(木) 15時58分

2 場 所

市役所 2階会議室A・B

3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	菊 地 裕 子
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一

4 欠席した教育委員の氏名

なし

5 事務局の職氏名

伊達市	
企画財政部長	石 澤 高 幸
企画課長	高 田 真 次
企画課企画調整係	三 浦 寛 大

6 説明員の職氏名

伊達市教育委員会	
学校教育課長	鈴 木 俊 仁
生涯学習課長	山 根 一 志
図書館長	浅 水 まゆみ
学校給食センター所長	篠 原 計 浩
学校教育課企画総務係長	水 野 一 英

開 会 （15時00分）

◎菊谷市長

本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。

今回は2回目ということでありますけども、更に教育長が変わりまして、新しい制度の初めての教育長であります影山教育長にご就任いただいております。

ただいまから、平成27年度第2回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。

次第書でございます本日の協議案件2案件につきまして、今後の行政の参考にさせていただきたく、皆さんからのさまざまなご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

協議第2号につきましては、個別の学校名をあげての協議となりますが、本市は結果公表について学校名の公表はしないこととしておりますことから、非公開として協議を行いたいと思います。

それでは協議第1号「伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略について」、事務局より説明いたします。

◎高田企画課長

それでは私から「伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」につきましてご説明を申し上げます。

この人口ビジョン・総合戦略につきましては、平成20年から始まりました日本の人口減少社会に対応するため、人口減少の克服と地方創生をあわせて行うことで、将来にわたって活力ある日本社会の維持を目指すことを目的として制定されました「まち・ひと・しごと創生法」に基づき策定をしております。

本戦略の構成といたしましては、策定の背景や対象期間を示した第1章、伊達市の人口の動向を分析し、将来人口の展望を示した人口ビジョン編の第2章、伊達市が今後目指すべき将来の方向を提示し、持続可能なまちづくりのための戦略を示した総合戦略編の第3章の3章構成となっております。

まずは第1章、3ページをご覧ください。人口ビジョン・総合戦略の対象期間についてでございますけれども、人口ビジョンにつきましては、国の長期ビジョンの期間でございます2060年までの推計を行います。中期的な人口推計として2040年に重点を置くこととしております。総合戦略につきましては、国の総合戦略に合わせ2015年から2019年の5年間を対象期間としております。

次に第2章の人口ビジョン編についてご説明を申し上げます。9ページをご覧ください。伊達市の総人口と年齢3区分別人口の推移でございます。総人口につきましては2000年をピークに、2060年にはピークの半分近くまで減少すると推計されております。14歳以下の年少人口は2010年と比較いたしまして、2040年には約半分に、2060年には3分の1までに減少することが推計されております。続いて生産年齢人口でございますけれども、2060年には1万人を割り込み、老年人口も2020年をピークに減少すると推計されております。1980年にはわずか10%でございました高齢化率につきましては、2040年には44%になると推計されております。

続きまして11ページをご覧ください。人口の自然増減についてでございます。グラフにございますとおり、1972年にピークを迎えた自然増も、出生数は減少、死亡数は増加を続け、1993年以降は自然減に転じております。昨年は出生約200人に対し死亡約500人と、300

人も自然減の状況となっております。12ページにもございますとおり、有配偶率は減少し続けており、また13ページにございますように30歳以降の有配偶出生率が伸びております。これによりまして晩婚化が進み少子化の原因になっている傾向が出ているということになってございます。14ページ以降のアンケート結果にございますように、出会いが無いことや経済的な理由から独身でいるケースが多くなっております。また、子どもが少ない理由といたしまして、介護・福祉職の理想子ども数が少ないなど、経済的な理由によるところが大きい状況となっております。

次に社会増減についてでございますが、18ページをご覧ください。1969年の志村化工の操業開始や1986年の国鉄民営化など、大規模な事業所の参入、撤退の影響による社会増減を経まして、近年は均衡状態にあります。伊達市の特徴的な傾向としましては、23ページに大きな特徴といたしまして3つ記載させていただいておりますが、まず、特に札幌圏への大学進学や就職のための10代後半から20代前半の転出超過、25ページにございます2番目として、仕事、結婚、住宅等の理由による30代の転入超過、続きまして26ページにございます3番目といたしまして、リタイヤ後の生活の場への移住による50歳以上の転入超過がございます。

そして、31、32ページにございますように、伊達市の強み弱みを洗い出し、これら进行分析、検討した結果、39ページのとおり出生率について2030年にアンケート結果から算出したしました希望出生率1.7、2040年に人口置換水準である2.1を達成、社会増減については、均衡状態にございます現行の状況が続くものと仮定いたしまして、2040年の推計人口27,784人を目標値として設定してございます。

続きまして第3章の総合戦略編につきましてご説明いたします。41ページをご覧ください。地域活力の維持に向けましては、15～24歳の転出抑制を図る施策を重点的に推進することが必要となってまいりますが、高等教育機関が無いことから、その年代の一定の転出はやむを得ないため、将来の転出抑制やUターン候補を育む仕組みや環境整備が求められています。また、社会増減の均衡状態の維持に向けましては、25～44歳の転入超過に向けた取組を促進することに加えまして、15～24歳で転出しても、“戻ってきたい”、“戻ってこれる”と思える意識の醸成や情報発信が必要となってまいります。特に、15～44歳の若年層の転出抑制、転入促進の効果が期待できる施策に取り組むことといたしまして、定住人口減少の改善や交流人口の拡大を図ることで「持続可能なまちづくり」を目指し、次の3点の①地域資源を生かした産業を育て、雇用を生み出す、②「選ばれるまち」となるための環境をつくる、③健康社会の実現、この3つの基本視点に立った施策を進めることとしております。

続きまして44ページをご覧ください。総合戦略の策定・推進体制を記載しておりますが、策定にあたりまして有識者会議を設置いたしております。この会議につきましては、幅広い分野からのご参画をいただき将来の伊達市についてご議論をいただいております。教育関係団体といたしまして、伊達高等学校、伊達緑丘高等学校の各校長先生、市P連の会長にご参画いただいております。影山教育長にもご尽力をいただきました。また、戦略の推進にあたりましては、PDCAサイクルの推進により、継続的な改善を重ねることとしております。

今後の施策の方向性といたしましては、具体的な施策の方向性につきましては、47ページ以降に記載しております。①健康産業の創造、②定住促進のための環境整備、③生涯現役社会の実現の3本の戦略を掲げ、それぞれに基本目標、数値目標を設定し、実現に向け

た取組を進めてまいります。

これらの取組を進めることで、46ページに記載しております将来の伊達市のイメージを目指してまいりたいと考えております。

教育関係といたしましては、特に54ページ、戦略2の定住促進のための環境整備におきまして、子育てにやさしいまちづくりや伊達を誇りに思うひとづくりの部分で事業を計画しております。

施策の推進につきましては、教育委員会のご協力も頂戴することとなりますので、よろしく願いいたします。

以上、説明とさせていただきます。

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、だいぶ端折って説明しましたのでわかりづらい部分もあるかと思いますが、皆様から何かご質問ありましたらお願いしたいと思います。

私の方から付け加えたいと思いますけども、少子化問題というのは30年前くらいから騒がれていて、なぜ少子化なのかということ結構皆さん議論してきたはずなのに、基本的な問題は何も解決しないで地方に頑張れという今回の問題提起は本当に正しいのかということ考えるとですね、多分無理だろうと思います。抜本的に変わらない限り。なぜ少子化になってきているかという抜本的な問題を整理しないで、地方ががんばらないから地方ががんばれというアプローチでは絶対無理だと思うのですね。

先ほど人口ビジョンで説明しましたように、教育機関が、特に高等教育機関がですね、ほとんど東京、札幌に一極集中して、例えば中央大学も今度また東京に戻るという、結局、都市でないと学生が集まらないという現象が起きています。これを助長しているのが国の政策ですよ。例えば、私立大学といえども国から補助金が出ているわけですから、例えば室蘭などの人口減少が激しい地域にある大学を拡充しようとか、支援をしようとかそういう取組をすれば、例えば東京23区内は駄目とか、札幌から何キロ圏は駄目だとか、こういうことをやらない限りちょっと難しいだろうと思います。

もう1つ、今年、日赤の看護学校の入学生が30名定員で17名でした。今年極端に減ったんですね。どうしてなのか日赤の部長に聞いたら、看護大学ができていまして、それが2000年以降、5つか6つですかね道内にもできていて、調べましたら道内に看護大学、看護学部を持っているのが、15大学あります。その定員がほぼ1,000人。札幌への集中率が70%強となっています。これで本当に地方創生ができるのかということですよ。

もう1つ根拠としては、東京も札幌も、札幌は全く東京のミニチュア版ですが、出生率の話ですね。ほぼ1なんです。だから、もし札幌が無かったら道内の出生率が相当上がるということになりますね。ですから、こういう対策をきちんと国が指導して、例えば札幌圏は定員何人、函館圏は何人というようにある程度そういう配分をするとですね、今言った出生率の問題が制限できるだろうと思います。

それから、皆さんご存知の小松製作所ですが、本社機能を石川県小松市に移したんですね。すると社員の出生率が2.いくつになったという話です。今この動きをですね、昨日まで富山に行っていたのですが、YKKが同じように本社を富山市に移すという計画らしいです。ですから考えようですけども、一極集中を是正しない限り無理ですよ。それは、大学、それから企業、これらをやらないでですね、例えば工場が中央にあったけども、今どんどんこれがほとんど海外に行ってしまいましたね。1980年代以降、円高の影響もあって。それでなかなか戻ってこない。それから、産業集積されない。例えば、今回富山にな

ぜ行ったかという、富山でやっている薬草、漢方薬を作るのに、今までは道内が取っていたものをどんどん減らして、中国製品が9割だったらしいです。だけど中国でも人気になって、まず「物」が入らないことと、それから農薬の問題などがあって、今は中国産より5割高くても買いたいというぐらい国内回帰が起きています。かといって集積されていないものですから、それで道経連が将来富山の製薬会社を資源のある北海道でやってもらいたいというのが本音であつたらしいのですが、実際無理であろうと。

産業集積というのは、特に自動車はそうですけども分業化が進んでいます。分業を支える下請業者がいなくてできないのです。本社の工場があつても、それを支える仕組みが無いと企業は来ないというのですね。それと同じように、さっきの大学の話に戻りますけども、講師をどうするかという話などで今まで東京集中が進んできましたけども、これも本格的にやっていかないと地方はまず無理だろうと思いますので、その本質的なところを国が示さないで地方に人口と言ったところで無理だなど私は思います。

さりとて、作らないわけにはいかないのです、これを作ったのと、もう1つはですね、本気になってやろうと思っているので、このような感じで計画を作りました。

早瀬委員、何か意見ありませんか。

◎早瀬委員

これを読みまして、これからどんなことを考えたらいいのかなと思いました。

前から考えていたのは、ちょっとずれるかもしれないですけど、3世代で同居をすれば子どもの教育、しつけ、虐待ですとか、介護の問題ですとか、ボケ防止ですとか、いろいろなことが良い方向に向かうのではないかなと思います。その3世代、税制も少し優遇されるような方向にあるみたいですが、例えば、そういう人たちが伊達に住むとものすごい特典があればかなと思います。今の特典では少し魅力が足りない気がします。

◎菊谷市長

おっしゃるとおりでして、伊達市の医療費は、国民健康保険は、北海道自体が全国レベルよりはるかに高く、伊達は2割ぐらいだったかな、だいたい、北海道と福岡県が1人当たりの医療費が高いトップなんです。実は、伊達は更にその上を行っているわけです。

多分、今言った3世代の逆で、単身世帯や老々世帯が多くて子どもと同居していないから多いのではないかなと推測します。ただ実際に、3世代同居できる環境を作れるかというところが難しいですけどね。

平田委員、何か意見ありませんか。

◎平田委員

根本的な話なので難しいなと思うのが正直なところで、ただ、市の行政サイドでいろいろやってきていただいていると思います。

新聞を見たんですが、急行はまなすが無くなるということで、はまなずに替わる遅い時間に札幌発で伊達に着くような電車をという提案を市長がされておられて、せめて今あるインフラは守るというのが最低条件ではないかなというのは思っています。

現状、伊達市はすごくやっていると思いますし、これをまずしっかり継続していくということと、今あるインフラをこれ以上無くさないという環境を作っていくことではないかなと思います。それが、大学も含めて、そういったことは影響して来るのではないかなと思います。

◎菊谷市長

今のJRの話ですが、せっかくの機会なのでお話ししますが、伊達紋別駅の跨線橋があ

って、それとホームに降りる連絡橋があるのですが、それをセットにしようと思っ
ています。なぜやるかという、エレベーターが無くて不便だという声が多いので、
跨線橋とJRの連絡橋の併用型のエレベーターを作ります。北側から上ってホームに
降りる、それから西浜町に降りるようなことができます。やっとJRとの協定が結ば
れて、今回補正予算を通してもらいました。

その高さですが、実は電化対応にしました。電化と非電化で1メートルくらい高
さが違うようです。一応、夢みたいな話ですが、電化で対応しようと思っ
て1メートルくらい高くしたので、その分市の負担も増えるのですが、そういう
内容にしました。

もう1つ高くした利点は、東日本大震災後は津波の推定の高さが6.4メー
トルになりまして、津波避難時にいよいよ間に合わなければ、一時避難が
できるのではないかと高さでもあります。

それから、新幹線が長万部駅でどう在来線と新幹線が分かれるかというの
が重要になってくると思います。なぜかという、新幹線と在来線の駅が離
れていると乗り換えが不便で、一番良いのは、ホーム・トゥ・ホームで3番
線に降りて4番線で在来線が待っていることです。最低これは必要です。
できれば、岩倉市長が言っているようにフルゲージで連結して分離して
来るというのが一番望ましいですけども。いずれにしても、そういう
ような対応ができるようにしておこうというものです。

もう1つ、先ほどの急行はまなすの件ですけども、今考えているのは、
伊達まで電化できるようにお願いしたい。どうするかという、例えば、
特急すずらんがありますね、あれは室蘭と札幌を結んでいます。それを
スイッチバックでやってみたらどうか。ということは、東室蘭を通
って室蘭駅で終点ですね。それを伊達紋別駅までスイッチバックで
持ってくる。伊達紋別までの途中駅は停まらないで、終点伊達紋別
というのを目指して運動したらどうかと思っています。

これはですね、遠軽町に行った際に、遠軽もそうなんです。遠軽駅に
着いたら、今度は向きを変えて発車して網走まで行くんです。それが
あるのだったら、すずらんもそうすると、伊達まで10数分で来る
だろうと。それを今度要望していったらいいのかなと思っています。

岩本委員、何かございませんか。

◎岩本委員

少子化の問題ですが、市長もおっしゃったように抜本的な問題である
ので難しいと思います。

教育委員の立場で言いますと、子育てしやすいまち、お金の支援が
あるだけでは無く、教育的なレベルの高さとか。室蘭と伊達の小学校
の学力の差もほとんどなくなっているわけですので、逆に室蘭で働
いている方々が、伊達で子育てして室蘭に通勤したくなるような
環境作りというのが、子育て世代を増やすには良いのではないかと
思います。

今言った交通インフラの問題ももちろん、通勤が電車になるのか車
になるのかにせよ、そういう室蘭近郊で働く人たちが、伊達で子
育てしたくなるようなまちづくり、小学校もそうですが塾だつたり、
そういう教育的なところで子育て世代を呼び寄せられる。

あとは、子どもを遊ばせることのできる大規模な公園があつたり
とか。自分たちが小さいころだと、有珠のアスレチックみたいな。
そういう子育て世代が魅力あるような施設があつても良いのではない
かなと思いました。

◎菊谷市長

ありがとうございます。菊地委員，何かございませんか。

◎菊地委員

今話を聞きまして、30年くらい前の話ですが、登別、幌別の辺りはいつも霧が多くて、伊達の方に向かってくると霧が晴れて、太陽が見えていいというので、驚いたことなんです。洗濯した子どものおしめなどを持ってきて館山公園で干して、子どもたちを遊ばせているんだという話を聞いたことがあるんです。その時に、すごい大胆だなと思ったのですが、遊ばせているうちに、本当にお日様に当って干せるし、子どもたちは遊んでいるし、そして車に乗せて帰るといいますね。それ聞いた時、伊達はお天気がいいということは、私たちは当たり前で洗濯物を干していましたが、そういう気候がいいということが、今のお話し聞きながら1つの利点であると。通勤圏ですね、幌別、登別、室蘭。それをやると、今話はできるかなと思いました。

◎菊谷市長

非常に難しいのですが、人口を奪い合うというかたちの政策になってしまうんです。ここはなかなか言い出しづらくて難しいのと、実際に伊達は、昼夜間人口というのですが、普通、大きい都市に小さい町から働きに行きますよね、夜になったら帰ってくる。伊達は逆なんです、昼夜間人口が。昼間、伊達から小さい町に出て行って、壮瞥町とか、そうべつ温泉病院は8割が伊達から来ているらしいです。洞爺湖温泉の主な経営者もだいたい伊達に住んでいるようです。ですから、そういう状況で、なかなか、ちょっと難しいところもありますけども。

そうは言っても、何もしないと、さっき岩本委員が言われたようなこともあるので、そこら辺は、さっきの3世代同居も含めて、何かしら考えたいと思っているのと、やはり結婚した時に伊達は家賃が高いじゃないですか。それを支えることも考えたいと思って、実は、旭町の改良住宅がかなり古いので、来年1棟18戸をリフォームしようと思っています。そこは、今までの公営住宅の政策を変えようと、若い人が入れるような公営住宅にしていこうと思っています。今までは、公営住宅法でがんじがらめに解釈してやっていた部分があるので、そこら辺はある程度緩やかにして、今言われたような子育て支援のできるような住宅を供給していきたいと思っています。そうすると、当然家賃差が相当あるので住んでもらえるのではないかと。駅前も10数戸ですが、子育て支援枠を作ったんですけども、それをもうちょっと緩くしていければと考えております。

あと公園の話は、この前聞いてなるほどと思って、できるかどうかかわからないですが、大滝でやりたいなと思っています。なぜ大滝かと言うと、意外と大滝は千歳、苫小牧も近く、1時間圏なんです。あそこのネームバリューができれば、結構そのあたりの方が子どもを連れてきてくれるのではないかなと思うんです。土地もありますし。それからあそこはニセコに行く途中なので、冬の交通量があって、外国人も呼べるので。だから、30分か1時間滞在できるような子どもの遊び場というイメージで考えてくれとは言っています。

最後に影山教育長，何かありませんか。

◎影山教育長

ちょうど54ページの「伊達市を誇りに思うひとづくり」というのは、私が推進委員をやらせていただいた時に私が言い出したのですが、やはり、今出た話題のほかに、特に学校教育という観点でいくと、学校の中で郷土を知る学習というのは、それぞれの学校でやっていて、教育委員会の副読本、現在精査中ですが、系統立ててないだろうというのが現実に思いますね。小学校、中学校それぞれ工夫はありますけど。

伊達に暮らす子どもたち，学ぶ子どもたちが伊達を知って，加えて地域にいろいろな活動をする時に，社会参画と言いますが，アンケートを見ると子どもたちが地域に出ていないですね。教員も出ていない部分もありますが。そうした時に，子どもたちが，ただ外からお願いされたから参加するというスタイルよりは，もっと一步踏み込んで企画段階，子どもがやれることというのはほんの僅かですが，やったような仕掛けに大人側にしてもらって，そうすることによって，より伊達を知って，さらに伊達のこういう活動は自分が小さいころから関わってきたという愛着を持つことによって，急がば回れではないですが，Uターン，Iターンいろいろありますが，そういった人たちが都会に出て，あるいは上級学校に行った時に，やっぱり自分のルーツ，根っこは伊達だよなど，受け皿になる仕事場が無ければ駄目ですが，そういった仕事とは，また教育委員会としてとりあえず切り離しておいて，そういう心づくり，ひとづくり，心育むといったような教育施策を推進していかなくてはならないだろうと考えております。

あとは，昨日市長と一緒に文化協会の功績者表彰に出席して，いろいろな方から訴えられたのは，とにかくあそこも超高齢化団体なので，文化を受け継いでくれる人達がいないと。ちょうど市長も祝辞の中で，それを広く知らしめていく施策を展開していかなければならないとお話しをされていたのですが，おそらく文化協会の取組を若い人は知らないですね。やはりそういうところと学校教育もうまくリンクしていかないと，次世代を繋げていけないだろうなというところで，この協議第1号に関しては，そういった取組を具体的にしていかなければならないなと考えていたところです。

◎菊谷市長

ありがとうございます。

誇りに思うというのは，実体験でそう思っていますけども，今年の夏に光陵中学校の生徒さんが3人来られて，壁新聞を作るのに取材をさせてほしいと先生1人と来たんです。その取材の中で野菜の話をしました。伊達は野菜の種類が多くて世界一なんだ，ギネスにそのうち挑戦するという話を言ったら，子どもたちが素晴らしいって言うんです。そんなのでいいのと言ったら，とても素晴らしいって言うんです。

それと今年3月に伊達中と光陵中で1時間ずつ喋る機会を与えてもらって，将来どこに住みたいか手を挙げてもらいました。驚いたのは，伊達に残りたいという子は結構いたんです。私は出て行ってくれと，サーモンのように立派な大人になって帰ってきてくれと，いう話は冗談で言いましたけども。

ですから，誇りに思えるというのは，伊達に住まなくても伊達を自慢できるというのは，我々にとっては，すごく重要なことだなと感じました。

それでは，次の協議案件に移りたいと思います。

(非公開案件である，協議第2号「伊達市内小中学校の学力について」意見交換が行われた。)

◎菊谷市長

以上で，本日の日程はすべて終了いたします。

これをもちまして，平成27年度第2回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 (15時58分)